

新たなコミュニティ形成による生産年齢人口減少抑制
外出不要の買物支援システム導入による高齢化の抑制

奈良県三郷町

三郷町の概要



奈良県三郷町

面積：8.79km²

人口：約23,000人

コンパクトなまち



大阪のベッドタウンとして発展
町内には、保育園（4園）、幼稚園
（3園）があり、次年度新たに保育園
が1園整備され、待機児童の解消、子
育て支援の充実を図る。

奈良県有数の観光地である信貴山地
区の豊かな自然や観光農園、
また日本遺産に登録された龍田古道、
龍田大社の観光資源を有する。

地場産業は草履、近年は子どもの土
踏まずの形成促進に効果的な本町発
の健康ぞうり「ミサトっ子」が注目
されている。



三郷町の将来像

- 令和元年7月に、「SDGs未来都市」に選定
SDGs未来都市計画において、スマートシティを目指す。



- 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」を将来像
SDGs未来都市として、基本理念である「誰一人取り残さない社会」から、年齢、国籍、人種、障がいの有無に関わらず、全ての人がいきいきと遊び、学び、働き、生活し、活躍、交流できる
ボーダーレスコミュニティの**全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」**を創造する。



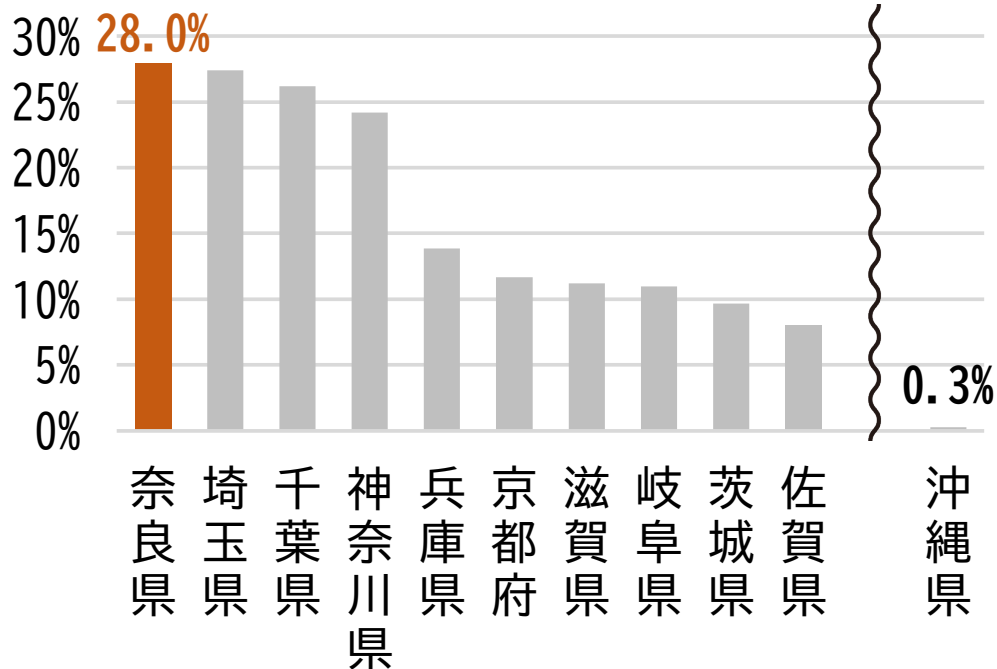
今年度で、町内にある大学が町外に移転される。
ピーク時は、4,000人の教職員が通っていた大学の移転は、交流人口の減少や転出者の増加をうみ、町にとって大きな問題である。
その跡地を町が譲り受けることになり、活用方針を将来像を実現するためのエリアに設定し、このエリアを中心に将来像の実現と交流人口や転入者の増加を図り地方創生に取り組むこととした。

三郷町の課題①

1. 町内に働く場が少ない

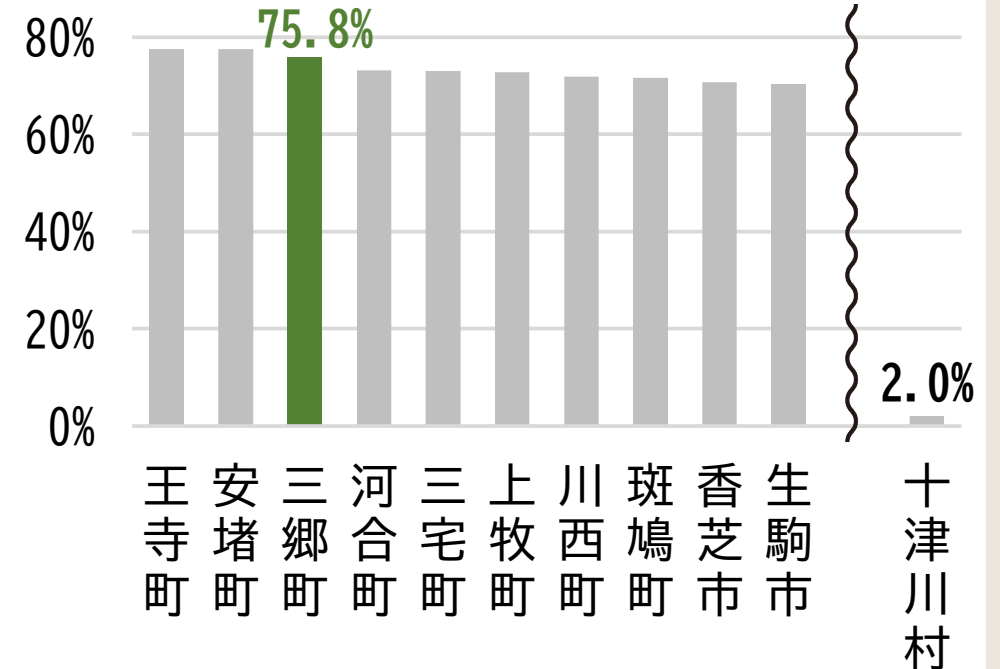
本町は、大阪への交通アクセスの良さから、大阪のベッドタウンとして1970年代から発展した町である。そのため、土地の大部分は住宅用地に指定され、工場を誘致するような場所はほとんどない。町内で働きたいという住民の声はあるが、要望に応えられていない。

県外就業者の割合



出展：平成27年国勢調査

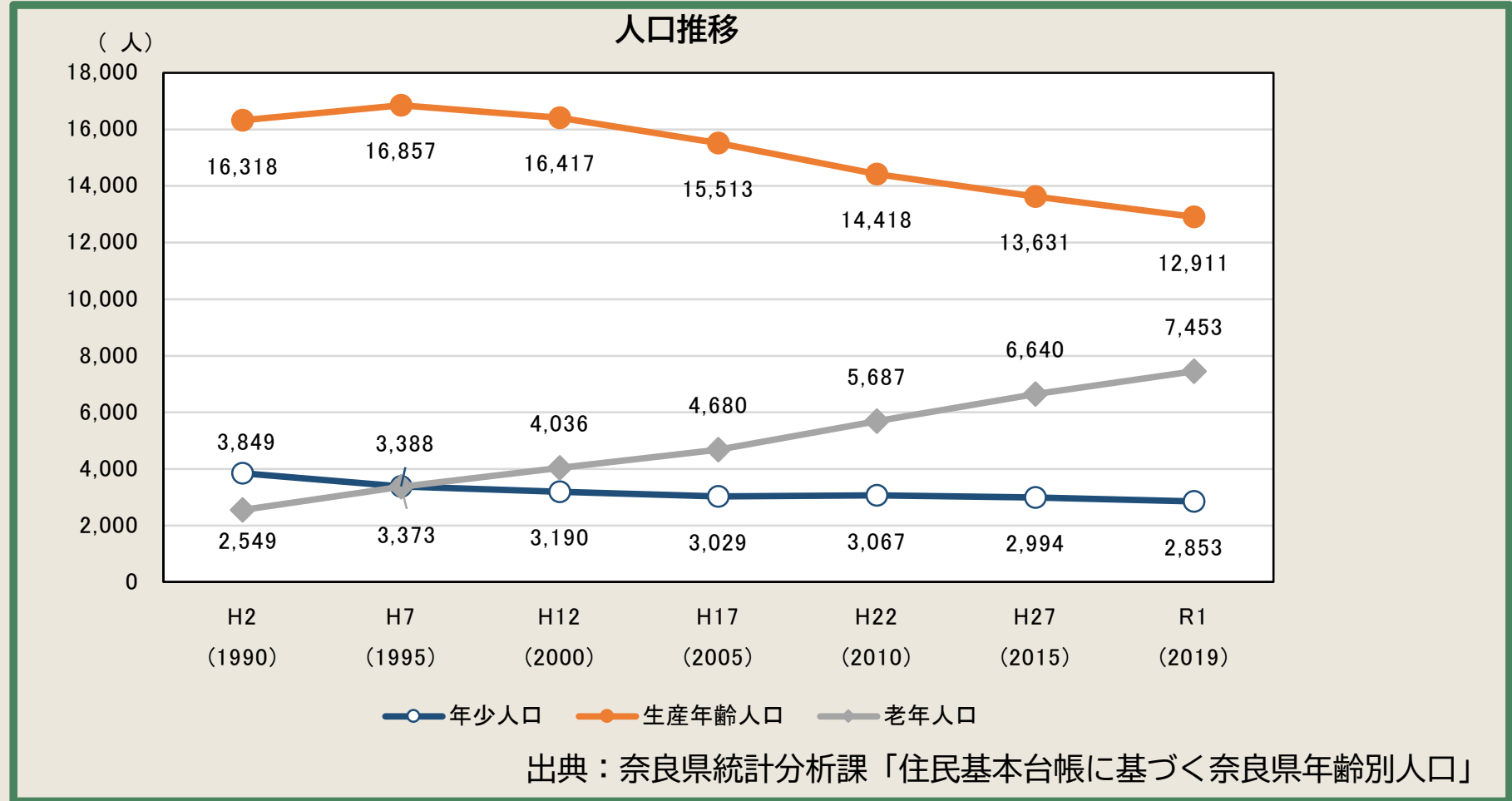
他市町村での就業者の割合



出展：平成27年国勢調査

三郷町の課題①

1. 町内に働く場が少ない



生産年齢人口は年々減少している。その要因に、雇用の場が少ないことがあげられる。RESASによる2015年の昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口の割合）は約8割であり、滞在人口からも休日より平日のほうが人口は少ない。通勤や通学等により町外へ流出しているケースが多い。

三郷町の課題①

3. 新たなサテライトオフィスの設置（大学跡地の活用）

FSS35キャンパス

● 教育研究ゾーン

乳幼児から成人までを対象とする教育とそれに伴う研究を行うゾーン（施設利用者や地域住民の交流につながる提案も可能とする）

- ◆ 5号館：障がい者・高齢者の就労支援施設、児童福祉施設 等
- ◆ 6号館：障がい者のグループホーム 等
- ◆ 7号館：カフェ併設図書館、保育・教育・福祉に関する研究所 等

● 健康交流ゾーン

健康増進を図る事業を通して高齢者や障がい者の居場所づくりや、健康相談の実施等、施設利用者及び住民の健康・交流に資するゾーン

- ◆ 1号館：サービス付き高齢者住宅 等
- ◆ 2号館：カフェテラス、保育士・介護福祉士の専門学校 等

● 産業振興ゾーン

サテライトオフィスを整備し、町内の雇用や起業の推進を図るゾーン



町内での更なる雇用創出を目的に、産業振興ゾーンに、新たなサテライトオフィスを令和4年度末に開設予定



企業誘致が問題

出典：学校法人奈良学園提供

三郷町の課題①

4. 新たなコミュニティ形成による生産年齢人口減少抑制

生産年齢人口の減少を抑え、特に子育てや介護により働きたくても時間や場所に制約があるため、働きにいけない方が身近な場所で働けるよう、新たなサテライトオフィスを開設する。
また、企業誘致により転入者の増加を図る。

既存のサテライトオフィスと差別化を図り、企業が利用したいと思える工夫が喫緊の課題である。



利用者同士が交流できるプラットフォーム(コミュニケーションサイトなど)の構築

- ・利用される企業同士やFSS35キャンパス内にてできる各種の福祉事業者との交流から新たなビジネスチャンスを創造できる機会を構築する。